

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

令和6年鏡開き式・武道始め



川端達夫大將軍が関（とき）の声をあげる（鎧着初め・鏡開き式）

令和6年鏡開き式・武道始め

新春に平和を願い
武道で日本の躍進を期す

川端達夫大將軍による鏡開き



茂里 毅
スポーツ庁次長



高村正彦
日本武道館会長



令和6年能登半島地震の被災者に対して黙祷が捧げられた



宗副将軍（右）と清水副将軍（左）による鏡割り

日本武道館の新春恒例行事「令和6年鏡開き式・武道始め」が成人の日の1月8日、日本武道館で開催された。当日は晴天に恵まれ、武道関係者や武道愛好家など約1550名が集まった。

開会式に先立ち、1月1日に発生した令和6年能登半島地震の被災者に対し、黙祷が捧げられた。

その後、開会式に続いて武道功労者表彰、鑑着初め・鏡開き式、武道9種目の模範演武が次々で行われた。締めくくりの武道始めは、昨年まではコロナ禍のため2部制に分けて行われていたが、今年は入場制限をせず、8武道（弓道を除く）が一齐に武道始めを実施。参加者は大道場いっぱい広がって稽古に汗を流し、この一年の技量向上と精進を祈願した。今年で60周年を迎えた日本武道館。その武道行事は「鏡開き式・武道始め」を皮切りに開始された。

■開会式・日本武道協議会武道功労者表彰式

定刻の正午、大太鼓の高音が鳴り響くと、場内が一段と明るくなった。初めに吉川英夫日本武道館常任理事・事務局長が開会を宣言。国歌斉唱の後、高村正彦日本武道館会長が挨拶に立った。

「年の始めに、心を新たに、『鏡開き式・武道始め』にご参加いただき、心から感謝申し上げます。入場制限のない鏡開き式を実施するのは、令和になってから初めてのことです。皆さまと一致団結して、武道振興事

業の充実に今まで以上に力を尽くしてまいります。これからの武道のますますの発展と皆様のご健勝を心からお祈りし、挨拶いたします」

続いて茂里毅スポーツ庁次長が祝辞を述べた。

「はじめに、令和6年能登半島地震について、亡くなられた方に心からお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

令和6年鏡開き式・武道始めが、武道の殿堂である日本武道館において、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。スポーツ庁では、武道指導者養成講習会などの開催や、武道ツーリズムの推進など、武道振興のための取り組みを行っています。今後ともご支援・ご協力のほど、よろしく申し上げます」

来賓紹介の後、日本武道協議会(武道9団体と日本武道館で組織)の令和5年度武道功労者・武道優良団体の表彰式が行われた。

■鑑着初め・鏡開き式

表彰後、館内の照明を落とし、「鑑着初め・鏡開き式」へと移った。再

鎧着初め・鏡開き式



川端達夫大將軍を筆頭に全軍が場内を行進



鎧を身に纏った全軍が照明の灯りとともに、姿を現した

び照明が灯ると、鎌倉武士の軍装を再現した甲冑を身につけた武者たちが陣形を整えて姿を現した。

今年には川端達夫日本武道館理事長が大将軍、宗昂馬少林寺拳法連盟会長と清水淳郎日本甲冑武具研究保存会監事の両氏が副將軍に扮した。奉行役の菅野茂雄同保存会常務理事の指揮の下、儀式は進行した。

まず前軍・後軍の侍大將が大将軍に着到状を読み上げて全軍到着を報告し、「三献の儀（出陣、凱旋などで行われる儀式）」が行われた。続いて大将軍が神前に進んで「誓いの詞」を奉読。武道の精神を發揮し、世界平和の実現と国家社会の発展に寄与することを誓った。

その後、大将軍は大道場中央に進み、木槌で鏡餅を打ち砕き館内からは拍手が沸き起こり、立て続けに副將軍が鏡樽を叩き割った。

帰陣後、出陣に先立って兜を着用した大将軍が「えい！ えい！」と力強く発声すると全軍が「おう！」と応じ、鬨の音が響き渡った。その後、太鼓役を合図に、勇ましく進発し、場内を行進した。

大將軍・副將軍役を務めて



川端達夫
日本武道館理事長

「大將軍を務め上げた感想をお願いします。」

「鎧が30kg以上あるので、大変重たかったです。そして何より、鎌倉時代の古式に則った歴史・文化・伝統の重みと、多くの方のご協力によって開催された鏡開き式の中核としての役割をいただいたことの責任の重さと、さまざまな『重み』を全身で感じながら行進させていただきました。貴重な機会をいただき、名誉なことであり、ありがとうございます。」

「今年は日本武道館60周年ですが、どのような一年にしたいですか。」

「年明け早々、大変な災害・事故で皆さんもいろいろな想いをお持ちだと思います。このような時こそ、武道の精神と実際の競技も含めた活動を通じて、武道が日本人の原動力の



宗昂馬
少林寺拳法連盟会長

「一つとして今年一年の役割を果たせたらと思っています。」

「副將軍を務め上げた感想をお願いします。」

「まだ若輩の身ながら副將軍の役割をいただき大変光栄です。武道そのものを襟を正してやっつけていくことに、昔ながらの意気込みを感じました。鎧はいい意味での重みを感じたのと、身に纏まとうことができ嬉しかったですし、日本男児おとこの力が漲みなぎりました。」

「少林寺拳法連盟の会長としてどのような一年にしたいですか。」

「現在、公益財団法人化に向けて尽力しております。さらに発展すべく内部の改革と、若い人たちの意見も取り入れ、サステナブルな組織を目指していきたいと思っています。」



着到状を読み上げる



三献の儀

■模範演武

模範演武は、弓道の「一つの坐射礼」から始まり、柔道「投の形」、なぎなた「全日本なぎなたの形」、合気道「基本技の投げ技、固め技、応用技の短刀取り、自由技」、剣道「全日本剣道連盟の杖道」、空手道「団体形・ウンスーとその分解」、少林寺拳法「女子自由組演武、立合評価法、男子自由組演武」、銃剣道「銃剣道の形、基本技、応用技、試合」と順に披露され、最後は相撲「基本動作と技・決まり手の説明」で締めくくられた。各道を代表する一流の演武が披露され、観客を魅了。会場は拍手で包まれた。

■武道始め（稽古会）

模範演武が終わると、各道の参加者が大道場いっぱいに広がって「武道始め（稽古会）」が行われた。昨年まではコロナ禍のため、2部制に分けて行われていたが、今年は8武道（弓道を除く）が一斉に武道始めを実施。稽古会参加者約720名が一堂に会し、コロナ禍前のような終始和気藹々とした雰囲気の中、参加者たちは約40分の稽古に励んだ。

模範演武



弓道



柔道



なぎなた



剣道



合気道



空手道



相撲



少林寺拳法



銃剣道



式終了後には、お汁粉とお餅が配られた



- ▼模範演武者
- ・弓道 原田友康教士七段、飯山雄介教士七段、山田直美教士七段
 - ・柔道 射手矢弦太五段、岩永憲門五段
 - ・なぎなた 廣瀬幸子教士、我山千枝子教士
 - ・合気道 入江嘉信七段、小山雄二六段、梅津翔五段、里館潤五段、藤田すみれ参段、有馬隼人参段、深浦徹也参段
 - ・剣道 藤崎興朗範士八段、釣賀敏郎範士八段、入江美雪錬士六段、小山美禰錬士六段、河野恵美錬士六段、小谷純司六段、近藤卓二段、松尾孝彦初段
 - ・空手道 水上千穂参段、畑中彩留葉初段、佐藤琴美式段
 - ・少林寺拳法 川島佑斗大拳士五段、秋元宏介正拳士四段、上野山敦士正拳士四段、佐藤生一式段、田中喜博大拳士六段、高橋明日香正拳士四段、山本望正拳士四段
 - ・銃剣道 山口あや子教士七段、齋藤慎一教士七段、菅野学教士七段、軽部久美子錬士六段、西村健教士七段、小林継人錬士六段、吉田充宏錬士六段、土居祐介錬士六段
 - ・相撲 外田守八段、五島雅治参段、南山空哉参段、安藤琉璃初段、森翔舞初段



武道始め

今年は8武道（弓道を除く）が一堂に会し、武道始めが行われた



武道功労表彰式

高村会長（前列中央）と表彰された武道功労者（前列）、武道優良団体代表者（後列）
表彰式では、高村正彦会長から功労者10名に表彰状と功労章、優良9団体に表彰状が授与された。

【武道功労者】

- ▽柔道 川口孝夫（広島県）
- ▽剣道 上田憲幸（福岡県）
- ▽弓道 佐竹万里子（和歌山県）
- ▽相撲 屋田敏弘（東京都）
- ▽空手道 松倉栄重（埼玉県）
- ▽合気道 冷水照夫（和歌山県）
- ▽少林寺拳法 中平新一郎（東京都）
- ▽なぎなた 小野恭子（千葉県）
- ▽銃剣道 村井敏夫（東京都）
- ▽日本武薙 山崎拓（福岡県）

【武道優良団体】

- ▽柔道 J R 東日本女子柔道部
- ▽剣道 奈良県剣道連盟
- ▽弓道 倉敷弓和会
- ▽相撲 文徳高等学校
- ▽空手道 全日本空手道連盟九州地区協議会
- ▽合気道 大分県合気道連盟
- ▽少林寺拳法 東京都少林寺拳法連盟
- ▽なぎなた 鹿児島県なぎなた連盟
- ▽銃剣道 霧島市立国分中央高等学校銃剣道部

※武道功労者の寄稿文は11～31ページに、武道優良団体の紹介は146～147ページに掲載。

日本武道館の単行本

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

柔道は、大澤慶己、長谷川博之、腹巻宏一
吉村和郎、山内直人の5氏を掲載！

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147



男子個人組手

安藤大騎（全実連）が

現役最後に初優勝

男子個人形

西山走（前年度優勝）が堂々の2連覇



男子個人組手・決勝＝上段突きで有効を奪う安藤（右）

女子個人組手

永井カンナ（全空連推薦）が

新女王に輝く

女子個人形

大野ひかる（前年度優勝）が
4連覇で有終の美を飾る



女子個人組手・決勝＝永井（左）の中段突きが決まる

天皇盃・皇后盃・内閣総理大臣杯第51回全日本空手道選手権大会（主催）全日本空手道連盟）が昨年12月9・10日に開催された。9日の団体戦は東京都足立区の東京武道館、10日の個人戦は日本武道館で行われた。

男子個人組手では安藤大騎（全実連・エイム）、女子個人組手では永井カンナ（全空連推薦・国士舘大4年）がそれぞれ初優勝を果たした。男子個人形は、西山走（前年度優勝・大分市消防局）が2連覇、女子個人形は大野ひかる（前年度優勝・大分市消防局）が4連覇を成し遂げた。また、男子個人組手の安藤と女子個人形の西山は試合後のインタビューで現役引退を表明し、選手生活に幕を下ろした。

男子団体組手は香川県が2連覇、女子団体組手は京都府が3連覇を達成した。

今大会から、組手競技（個人・団体）において新たな抗議手段である「プロテスト（試合の判定内容について、監督がコート主任に対して直接不服申し立てをすることができる制度）」が採用された。

個人組手

試合は全日本空手道連盟競技規定に則り、各都道府県ならびに競技団体が選出された代表選手、全空連推薦選手によるトーナメント方式で行われた。試合時間は3分、8ポイントの差がついた時点で終了。同点の場合は先にポイントを獲得（先

取）した方を勝者とし、先取がない場合は審判の旗判定により勝敗を決した。

準決勝・決勝は、技がポイントと認められなかった場合に監督がビデオ判定を要求することができるビデオレビュー（VR）システムが採用された。

■男子

前回大会準優勝の芝本航矢（東京）、同3位の崎山慶成（学連）が序盤戦で姿を消す。準決勝は、崎山優成（前年度優勝）、森優太（神奈川）、小崎友基（全空連推薦）、安藤大騎の4名が争った。

▼準決勝①

森 優太 2-1 崎山 優成

序盤から互いに様子を窺う展開が続いたが、試合終盤に森が飛び込みながらの上段突きで有効を取った。残り時間30秒と後がない崎山は猛攻を仕掛け、森が強引に前に出る瞬間を中段突きで捉える。

勝負の行方は判定に委ねられるかと思われたが、試合終了間際に、間合いを取るために後ろに下がった崎山に森が上段突きを繰り出し、有効。森が劇的な逆転勝利を勝ち取った。

▼準決勝②

安藤 大騎 4-2 小崎 友基

重量級の安藤と軽量級の小崎が対決。序盤に小崎が俊敏な動きから上段突きで有効を取ったが、安藤がすかさず上段突きで追いつく。互角のまま迎えた終盤、安藤の狙い澄ました中段蹴りが炸裂し、技あり。大きく優位に立つ。直後に小崎も上段突きで安藤に食らいつくが、試合終了間際に安藤がダメ押しの上段突きを決め、勝利。安藤が5年ぶりの決勝へ進出し、悲願の初優勝に王手をかけた。



男子個人組手・準決勝①＝森（左）が試合終了間際に上段突きを放つ



男子個人組手・準決勝②＝安藤（右）が中段蹴りを決める

▼決勝

安藤大騎 6-5 森 優太

いずれも初優勝をかけた決勝戦。

中盤、森が連続技で安藤を試合場の隅へ追い込み上段突きを放つが、安藤のカウンターの上段突きが有効と判定される。ここで森がVR判定を要求し、判定の結果、森の上段突きも有効と認められた。

試合時間残り3秒を残し、森4ポイント対安藤5ポイントとなる。試合再開直後、両者同時に上段突きを繰り出すと、森の有効と判定される。しかし、安藤が要求したVR判定により、安藤の突きも有効と認め

られた。そのまま試合が終了し、安藤が悲願の優勝を成し遂げた。



男子個人組手・決勝＝試合時間残り10秒、同点の場面で安藤（右）が上段突きを決め、優勢になる

現役選手としての集大成を見せる

男子個人組手・優勝＝安藤大騎選手



やっとここで優勝することができました。最後まで気が抜けない決勝で、下がったら負けかと思ったので、打ち合いながらもなんとか勝てました。（最後のVR判定の時の心境は）自分は技を打ち切ったと思っていましたが、もし

ポイントを取れなくとも残りの秒数やりきるだけだと思っていました。2023年で引退するつもりだったので、最後の集大成として優勝できてよかったです。（引退後は）自分自身が日本一になれたので、今度は指導者として選手とともに日本一になれるように頑張っていきたいと思っています。

■女子

3回戦、連覇を狙う澤江優月（前年度優勝）は釜つばさ（学連）と対決し、痛恨の判定負けを喫する。準決勝に進出したのは永井カンナ、釜

つばさ、中村しおり（全空連推薦）、前回大会準優勝の嶋田さらら（千葉）の4名。

▼準決勝①

永井カンナ 6-1 釜つばさ

試合開始から45秒、永井の中段蹴りが決まり、先取る。釜も攻勢に出るが、永井も攻めの手を緩めることなく応戦する。釜が上段突きで有効を奪取するも、永井が上段突きを

2連取し、試合終了間際に中段蹴りを決め、圧倒的な試合運びで決勝進出を果たした。

▼準決勝②

中村しおり 5-3 嶋田さらら

中村が中段突きで有効を先取。その後、中村3ポイント対嶋田1ポイントで迎えた終盤、中村が左足を蹴り上げた後の隙に、見事な中段蹴りが決まり、同点に追いつく。

その後、中村の中段突きが決まり4対3となるはずだったが、得点揭示の不備により、試合時間残り2・7秒まで巻き戻し、試合再開。最後の攻撃を仕掛ける嶋田を、待ち構え



女子個人組手・準決勝①＝永井（左）が中段蹴りを放ち、技ありを奪う



女子個人組手・準決勝②＝中村（左）が中段突きで有効を先取る

ていた中村が上段突きで仕留め、決勝への切符を手にした。

▼決勝

永井カンナ — 中村しおり(棄権)

試合序盤、中村が上段突きを繰り返した後の隙を永井がカウンターの上段突きで捉え、有効を先取。その後永井の技が冴え、5対0と中村を圧倒する。試合終了間際、中村が一発逆転の一本を狙い上段蹴りを放った瞬間、軸足を負傷し転倒。中村は10カウントの末、試合続行不可能と判断され、永井が初優勝を手中に収めた。



女子個人組手・決勝=永井(右)が上段突きで先取する

子どもの頃から憧れた大会で初優勝

女子個人組手・優勝II永井カンナ選手



とても嬉しいです。私の空手人生の中で一番の目標が全日本選手権で、小学生の頃からの会場に来て先輩たちの試合を観客席から見ていました。(決勝の中村選手について)大ベテラの相手なので、ちよつとでもペースを握られたら自分の良さを出せないと思っていたので、最初から自分の試合を作ること意識しました。最後まで、まだ中村選手が立ち上がってくると思っていたので、気を抜かないようにしていました。(今後の目標について)まだ国際大会で金メダルを取ることがないので、国内大会も確実に勝ちながら、国際大会でも金メダルを取れるように頑張ります。

個人形

試合は7名の審判による採点制で競われ、7名の点数のうち最高点と最低点を除く5名分の点数(50点満点)で評価される。

予選ラウンドは選手を二つのプールに分け、指定形を2回演武。各プールの上位4名が準決勝ラウンドで形を演武し、各準決勝ラウンドの1位が決勝進出となる。

■男子

プールAからは、前回大会優勝の西山が盤石の強さを見せ決勝進出。プールBからは、団体形日本代表の

在本幸司、本一将、本龍二ら強豪を退け、阿部倅地(全空連推薦)が初の決勝進出。3位には岡本拳(全空連推薦)、舟田葵(学連)が入賞した。

▼決勝

○西山 スーパーリンペイ 47・10点
阿部 アーナン 44・20点

先攻の西山が王者の風格ただよう渾身のスーパーリンペイを披露した。後攻の阿部も決勝の大舞台で堂々たるアーナンを披露し、決勝が終了した。

得点が発表されると、西山が47・10点(満点50点)という高得点を叩き出し、2連覇を達成した。



男子個人形・決勝=西山のスーパーリンペイ

■女子

プールAからは、3連覇中の大野が順当に決勝へ駒を進める。プールBからは、前回大会準優勝の大内美里沙(学連)、全日本実業団大会4連覇(2017〜2021年)の実績を持つ岩本衣美里(九州地区)を下し、東佐江子(全実連)が決勝に進出。3位には大内と三高きり(中国地区)が入賞した。

▼決勝

○大野 スーパーリンペイ 45・50点
東 パーブルーレン 44・30点

先攻の大野は得意のスーパーリンペイを披露。ピタリと止まる「静」と鋭くキレのある「動」の美しさに、



女子個人形・決勝=大野のスーパーリンペイ

観客は酔いしれた。後攻の東は、準決勝ラウンドでチャタンヤラ・クサンクーを打ち、大野のパーブルーレンより高い得点を記録。決勝でも一糸乱れぬパーブルーレンを披露し、絶対女王の大野に肉薄した。

結果は大野が45・50点で勝利。大野は試合後のインタビューで現役からの引退を表明し、「辛いこともたくさんあった中で、今日まで空手道を続けてこれたのは、多くの方々の支えがあったからだと思っています。本当に幸せな25年間の競技生活を送らせていただきありがとうございます」と涙ながらに感謝を述べ、会場の観客は大野に大きな拍手を送った。

世界チャンピオンへの意志を新たに

男子個人形・優勝II西山走選手



まず、ほっとした気持ちが大きいです。毎年、そしてこの一年の集大成として、応援してくださる皆様の前で演武して、日本一を取ることが今の自分のやるべきことだと思い、臨みました。(妻である大野選手の引退について) 僕が大分に来た時は、全日本でも海外でも全然勝てずにいましたが、ひかる(選手)にここまで引つ張ってもらいました。本当に感謝しています。これまでに同じ気持ちで試合に向かい、隣でウオーミングアップをしながら、お互いに鼓舞し合ってきました。これまでアジア選手権など一人で戦う試合もありましたが、これからの一人の戦いは全く違うものになると思います。その中でも世界チャンピオンになれるよう、これからも頑張ります。

夫の世界一を第二の人生として

女子個人形・優勝II大野ひかる選手



予選ラウンドでは、いつもの動きができずに、いくつかミスもしてしまいましたが、最後はしっかり勝ちきることができて本当にほっとしています。引退の時期を決めたのは、2023年の初めからです。世界選手権の年でもあったので、世界一を取って引退したいという気持ちが強かったので、自分にプレッシャーをかけるつもりで、今年(2023年)までと決めました。今後は第二の人生として、夫の世界一をしっかりサポートすること。そして、私が初めての大阪出身の世界一として、指導者として、第二、第三の世界一の選手を輩出できるように、お手伝いもしていけたらいいと思います。

団体組手

男子（5人制）

▼決勝

香川県 2 (21) — 1 (8) 東京都

先鋒 阪井将太 2—6 芝本航矢
 次鋒 丸尾太一 2—2 阿部遥佑
 中堅 佐藤一樹 0—0 片岡大樹
 副将 崎山優成 8—0 田中 隆
 大将 崎山慶成 9—0 田中颯大

前回大会と同じ香川県と東京都の決勝。先鋒戦で東京・芝本が快勝し東京都が優位に立つ。その後、次鋒・中堅と引き分けが続く。

副将戦で東京・田中(隆)が香川・崎山(優)から中段突き2発、上段突き1発の計3ポイントを奪う。そのまま試合時間が終了し、2勝をあげた東京都の優勝が一旦は決定した。

しかし、終了後に香川・根ヶ山監督が「プロテスト」を要求。慎重な審議の結果、東京・田中(隆)が時間内に場外へ出ていると判定され、勝利から一転、反則負けへと覆る。

その後試合再開し、両チーム1勝ずつのスコアに修正され、勝負は大

将戦へ。香川・崎山(慶)は序盤からポイントを連取し、東京・田中(颯)に攻撃の余地を与えない。試合終盤、崎山(慶)が得意とする大技の上段蹴りが見事に決まり、9対0で崎山(慶)が勝利。香川県が大逆転勝利で2連覇を達成した。

○優勝Ⅱ根ヶ山尚基監督(香川)

「それぞれの選手が自分の持ち味を出して戦った結果だと思っています。崎山兄弟がチームの軸として、作戦を組み立てながら戦いました。来年も今の選手をベースに、また若い新しい力を育てながら、3連覇に繋げていきたいです」



男子団体組手・決勝(大将戦)＝崎山(左)の上段突きが決まる

女子（3人制）

▼決勝

京都府 1 (7) — 1 (5) 福岡県

先鋒 大西照葉 4—0 戸田あさひ
 中堅 山本文香 3—3 向井瑠杏
 大将 小堂利奈 0—2 八頭司明

先鋒戦は京都・大西が勝利し、中堅戦は引き分け。福岡が勝利するには、大将戦で5ポイント以上の勝利が必須となる。福岡・八頭司の攻めを、京都・小堂が冷静にかわす展開が続く、試合は終盤戦へ。足が止まっている小堂に八頭司が中段蹴りを決め、技あり。勢いそのまま逆転を



女子団体組手・決勝(大将戦)＝小堂(左)対八頭司

狙う八頭司だったが、惜しくも時間切れとなり、ポイント差で京都府が勝利。3年連続の優勝に輝いた。

○優勝Ⅱ小寺修好監督(京都)

「3連覇できましたが大変嬉しいです。大将戦の終盤は、ポイントを取られて危ない場面もありましたが、なんとかポイント差で優勝することができました。来年以降も連覇を重ねていけるように、頑張ります」

【団体組手結果】

▼男子

- 優勝Ⅱ香川県 (2連覇)
- 準優勝Ⅱ東京都
- 3位Ⅱ岐阜県、静岡県

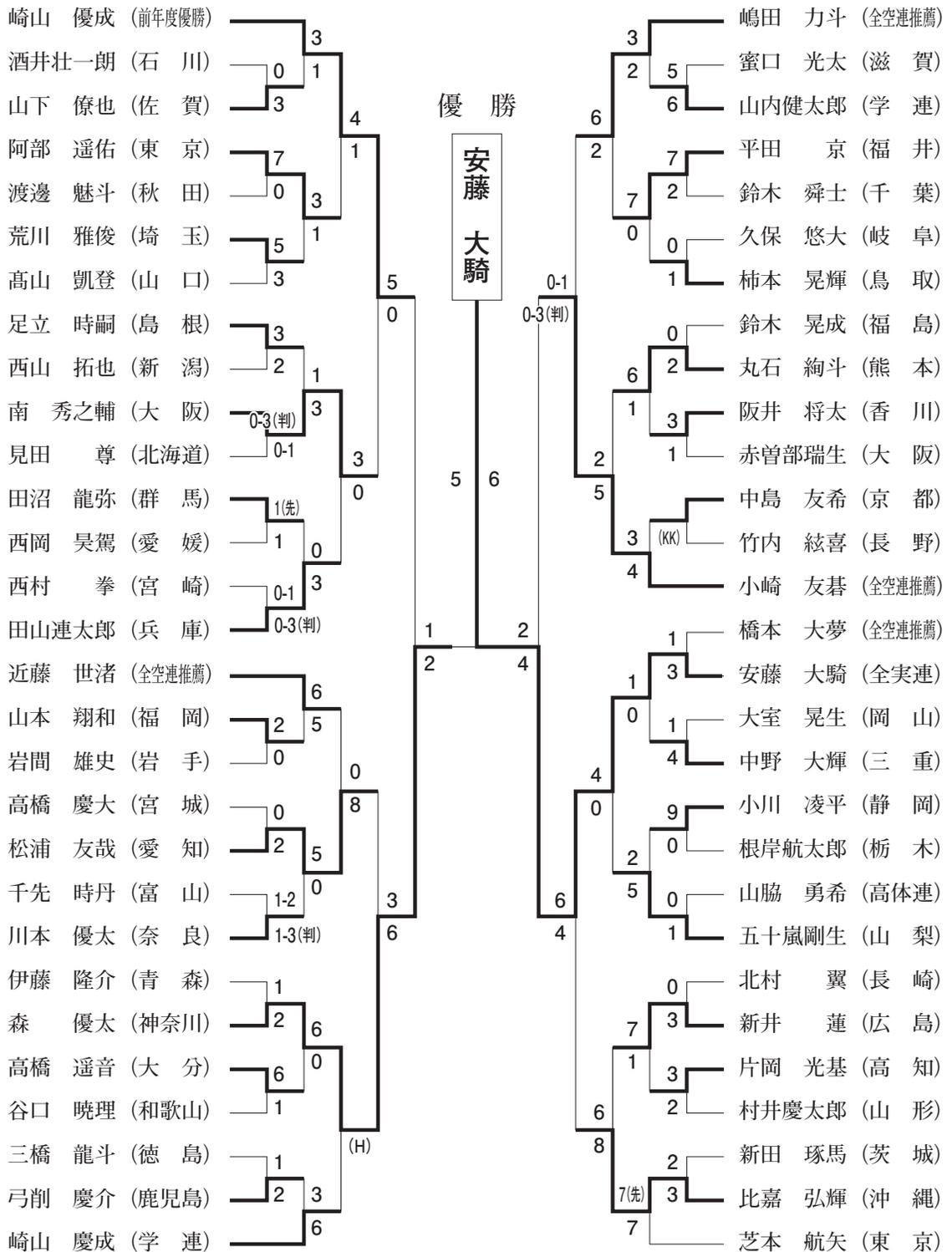
▼女子

- 優勝Ⅱ京都府 (3連覇)
- 準優勝Ⅱ福岡県
- 3位Ⅱ北海道、香川県

個人組手・形の結果は次ページから



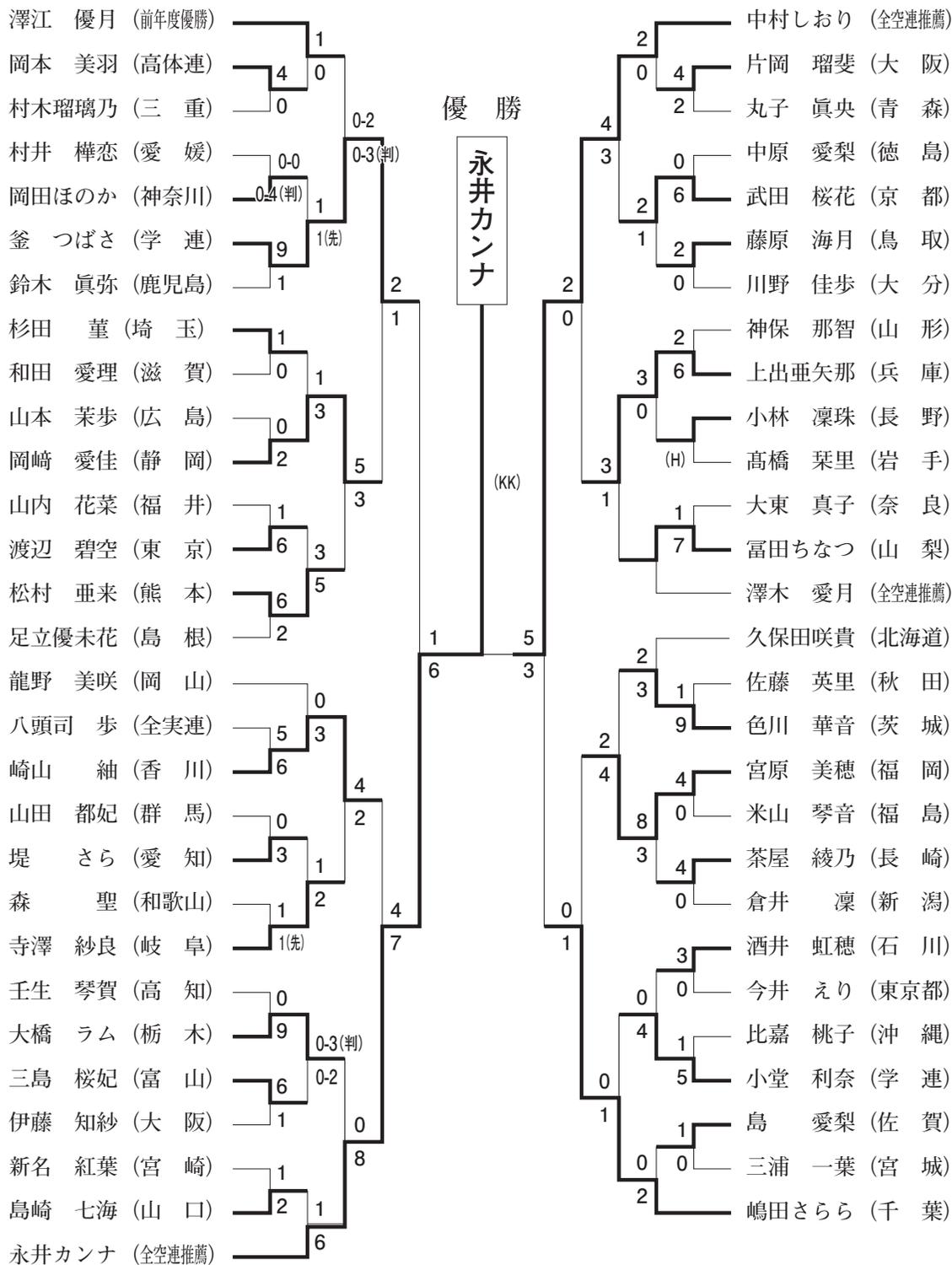
組手個人戦 男子



先 =先取ポイント
判 =旗判定 (左の数は本戦のポイント、
右の数は旗の本数)

S =失格
KK =棄権
H =反則

組手個人戦 女子



先 = 先取ポイント
 判 = 旗判定 (左の数は本戦のポイント、
 右の数は旗の本数)

S = 失格
 KK = 棄権
 H = 反則

好評発売中!

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、共同執筆で紐解く。空手の真髄に迫る白眉の一冊。

空手道

その歴史と技法

小山 正辰 和田 光二 嘉手苅 徹 著



四六判・上製・568頁・定価2,640円

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>

▽準決勝ラウンド・プール1	西山 走 (前年度優勝) パーグリーン	42	44	10	1位	★★★
	岡本 拳 (全空連推薦) ウンスト	41	42	40	2位	★★★
	年代 海里 (東海地区) スーパーリンペイ	30	70	40	3位	★★★
	下村 世連 (九州地区) アーナン	41	41	40	4位	★★★
▽準決勝ラウンド・プール2	阿部 倅地 (全空連推薦) スーパーリンペイ	42	42	40	1位	★★★
	舟田 葵 (学連) チャタシヤラ・クイサンクイ	43	43	40	2位	★★★
	本 一将 (全実連) ゴジユウシホシヨウ	42	42	90	3位	★★★
	本 龍二 (関東地区) ソーチン	70	90	40	4位	★★★
▽3位決定戦	岡本 拳 (全空連推薦) ソーチン	43	43	70	1位	○
	本 一将 (全実連) ウンスト	42	42	70	2位	○
	年代 海里 (東海地区) パーグリーン	43	43	70	3位	○
	舟田 葵 (学連) パーグリーン	40	80	70	4位	○
▽決勝戦	西山 走 (前年度優勝) スーパーリンペイ	44	47	10	1位	○
	阿部 倅地 (全空連推薦) アーナン	20	10	10	2位	○

▽準決勝ラウンド・プール1	大野ひかる (前年度優勝) パーグリーン	42	42	42	1位	★★★
	三島 きり (中国地区) スーパーリンペイ	40	42	80	2位	★★★
	尾野 真歩 (関東地区) チャタシヤラ・クイサンクイ	80	10	30	3位	★★★
	山田 和花 (全空連推薦) パーグリーン	40	42	80	4位	★★★
▽準決勝ラウンド・プール2	東 佐江子 (全実連) チャタシヤラ・クイサンクイ	40	40	44	1位	★★★
	大内美里沙 (学連) チャタシヤラ・クイサンクイ	40	40	44	2位	★★★
	岩本衣美里 (九州地区) パーグリーン	60	90	90	3位	★★★
	菊池ひかる (全空連推薦) パーグリーン	40	40	90	4位	★★★
▽3位決定戦	三島 きり (中国地区) パーグリーン	42	42	41	1位	○
	岩本衣美里 (九州地区) アーナン	41	41	80	2位	○
	尾野 真歩 (関東地区) パーグリーン	42	42	10	3位	○
	大内美里沙 (学連) パーグリーン	70	40	10	4位	○
▽決勝戦	大野ひかる (前年度優勝) スーパーリンペイ	44	45	50	1位	○
	東 佐江子 (全実連) パーグリーン	30	50	50	2位	○

令和5年度文化庁長官表彰式

小笠原流弓馬術が 文化庁長官表彰



都倉長官から表彰状を受け取る小笠原流弓馬術第三十一世宗家・小笠原清忠氏

令和5年度文化庁長官表彰の表彰式が12月19日、京都プライトンホテル（京都市上京区）で行われ、日本古武道協会加盟の小笠原流弓馬術（団体名・弓馬術礼法小笠原教場）が表彰を受けた。古武道流派としては、令和2年度の天真正伝香取神道流剣術に続き2流派目の受章となった。本表彰は永年にわたり文化活動に優れた成果を示し、我が国の文化の振興に貢献された方々、または、日本文化の海外発信、国際文化交流に貢献された方々の功績をたたえるため文化庁長官が表彰するもので、本年度は83名と4団体が表彰された。

表彰式では、国歌斉唱の後、都倉俊一文化庁長官から受章者一人ずつ表彰状が授与された。小笠原流弓馬術は小笠原清忠第三十一世宗家が出席し、表彰を受けた。

続いて、都倉長官が祝辞として、「表彰を受けられた皆様、誠におめでとございます。心から祝意を表したいと思います。」

文化庁の京都移転にあたり、本年はこの京都にて初の文化庁長官表彰を行うこととなりました。

この日本是我々の先輩方が苦勞して築いてくれた豊かな国ですが、これからの将来は従来のような経済発展や経済大国の道を進むわけにはいきません。

では、どういう道を歩んでいくか。それは日本の持つ大きな付加価値、2千年の歴史の中で先祖から受け継いできた文化・芸術です。これだけのリソースがある国は世界にはそうはありません。

日本の奥深い文化が全国各地にあり、特にこの京都には世界中から観光客が訪れます。日本のさまざまな文化やおもてなしの心に触れた方々が、心温まる思い出を得て、また日本に來たいと思うリピーターが増えていることを我々は発見しました。

このような日本が醸し出す無形、有形の文化財は、未来永劫我々の子孫に継承していかなければなりません。本日、表彰を受けられた皆様には、さらに高みを目指し、そして後継者を育成し、子孫に貴重な日本の文化を残していただくことを祈念いたします」と述べた。

■受章の喜びの声

小笠原流弓馬術

(弓馬術礼法小笠原教場)

小笠原清忠第三十一世宗家



「この度、日本武道館、日本古武道協会からご推薦いただいて受章することができ、とてもありがたく思っています。日頃から歴史ある古武道をもっと広めていく必要があると思っています。ありがとうございました。このような機会をつくっていただいた関係団体の皆様に感謝いたします」

(これからについて)「伝統を守るということは、今の時代に即したものではありません。先人たちが苦勞して作り上げたものを、我々がそのまま残していくという、非常に大変な作業です。今後とも関係団体の皆様と協力して、古武道の発展に努めていきたいと思っています」

小笠原流弓馬術

(弓馬術礼法小笠原教場)

■由来

鎌倉時代に源家の糾方(きゆうほう)を受けた小笠原長清によって創始された。長清は、頼朝公が鎌倉に幕府を開くと、父の加賀美二郎遠光に従い、糾方の伝師範として頼朝公の糾方師範となった。時に、文治3(1187)年、長清26歳のときである。

長清は父とともに流鏑馬(やぶさめ)、奉射、また鶴岡八幡参拝の次第など、故実を基に新しい武家儀式を制定した。

20代貞政は、徳川8代將軍吉宗公のとき、糾方師範と同時に騎射目代を命じられ、新しい流鏑馬を家伝の書を参照し制定した。

28代清務は、徳川15代將軍慶喜公の師範として騎戦調練法を作り、旗本の調練にあたった。明治12(1879)年には吹上禁苑で流鏑馬など天覧を賜った。翌年、將軍家の許しにより神田に弓馬術礼法小笠原教場を開く。

30代清信は伊勢神宮、鶴岡八幡宮などの各社の神事に奉仕し、儀礼文化学会設立にも努めた。現在31代清忠が継承している。

■流儀の特徴

小笠原家は礼法の家として広く知られているが、本来は弓馬の武術であり、礼法は家伝の弓馬術の基本動作をまとめて武家社会の作法としたものである。將軍家のみの御留流として、小笠原流のみが継承していたため昔間(こやかん)に流布することがなかった。小笠原流では、礼法、弓術、弓馬術の三つを修めることが必要であり、その修業の過程を大事として(第46回日本古武道演武大会プログラムから抜粋)

文化庁長官表彰式



都倉長官(前列中央)を囲んで記念撮影。2列目左端が小笠原清忠氏



祝辞を述べる都倉俊一文化庁長官



表彰式の会場となった京都ブライトンホテル



表彰式の様子

第40回若潮杯争奪武道大会

剣道男子

九州学院(熊本)が7回目の優勝

40回目を迎えた若潮杯争奪武道大会(主催 日本武道館、国際武道大学)が昨年12月25〜27日に国際武道大学(千葉県勝浦市)で開催された。全国から選抜された高校生が初日になぎなた、2日目に剣道、最終日はコロナ禍以降4年ぶりの開催となった柔道で競技を行った。

剣道の部(男女各24チーム)

1・2年生により、5人制で行われ、予選は3校によるリーグ戦、決

勝は各リーグ1位のトーナメント戦によって覇が競われた。

男子決勝は、九州学院(熊本)と桐蔭学園(神奈川)が対戦。先鋒戦

柔道男子

東海大相模(神奈川)が7回目の優勝

は引き分け、次鋒戦で桐蔭学園が一本勝ちを果した。九州学院が中堅戦から大将戦まで一本勝ちを決めた。九州学院が桐蔭学園を3-1で下し、6年ぶり7回目の優勝を果した。

女子は県立守谷(茨城)が初優勝を狙う県立島原(長崎)を2-1で退け、優勝。4年ぶり10回目の優勝を飾った。

柔道の部(男女各16チーム)

1・2年生により、男子5人制、女子3人制で争われた。

男子は、決勝で東海大相模(神奈川)と白鷗大足利(栃木)は2-2で、一本勝ち二つの東海大相模が、7年ぶり7回目の優勝を手にした。女子は、敬愛(福岡)が富士学苑(山梨)を1-0で破り、栄冠に輝いた。



剣道男子決勝=九州学院(右)対桐蔭学園



剣道男子優勝=九州学院(熊本)



柔道男子決勝=東海大相模(右)対白鷗大足利



柔道男子優勝 東海大相模(神奈川)

柔道女子優勝II敬愛(福岡)



剣道女子優勝=県立守谷(茨城)

なぎなたの部(男子24名、女子48名)

1~3年生により、男女とも予選は3人によるリーグ戦、決勝は各リーグ1位によるトーナメント戦で覇を競った。男子の決勝は、瀬長拓夢(沖縄・知念)が倉島星央(埼玉栄)を判定で下し、優勝を決めた。女子は、鈴木志穂(埼玉栄)が石田煌香(國學院大栃木)にメンを決めて優勝を果たした。

【大会結果】

■ 剣道

- ▽男子II①九州学院(熊本) ②桐蔭学園(神奈川) ③県立島原(長崎)、日章学園(宮崎)
- ▽女子II①県立守谷(茨城) ②県立島原(長崎) ③東奥義塾(青森)、今治精華(愛媛)

■ 柔道

- ▽男子II①東海大相模(神奈川) ②白鷗大足利(栃木) ③大成(愛知)、国士舘(東京)
- ▽女子II①敬愛(福岡) ②富士学苑(山梨) ③比叡山(滋賀)、佐久長聖(長野)

■ なぎなた

- ▽男子II①瀬長拓夢(沖縄・知念) ②倉島星央(埼玉栄) ③岩崎耀彦(神奈川大附)、渡邊元氣(山梨・甲府昭和)
- ▽女子II①鈴木志穂(埼玉栄) ②石田煌香(國學院大栃木) ③藤川桃花(奈良育英)、七沢明里(山梨・甲府昭和)



なぎなた女子優勝
鈴木志穂
(埼玉栄)



なぎなた男子優勝
瀬長拓夢
(沖縄・知念)



日本武道館の単行本



剣道 その歴史と技法

埼玉大学名誉教授 大保本輝雄 著

四六判・上製・516頁・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考へてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。



空手道 その歴史と技法

小山正辰・和田光二・嘉手苅徹 著

四六判・上製・548頁・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなつた。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苅徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苅氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一作。



合気道 その歴史と技法

合気道道主 植芝守央 著

四六判・上製・362頁・定価2,640円

世界140の国と地域、国内2400の道場・団体で愛好される合気道。開祖・植芝盛平翁の生涯、植芝吉祥丸二代道主による普及・振興、さらなる発展に繋げた現道主による取り組み。その歴史の中で培われ伝え続けてこられた合気道の理念、それを体現する稽古法、基本的な技法の解説……合気道の全てを網羅した決定版。

ご注文・お問い合わせ

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>

